

情報ステーション しろやま

平成20年 宇都宮市成人式 城山中学校区会場

平成20年城山中学校区成人式が、1月13日(日)午後2時からコンセーレで行われました。125人の新成人が記念式典に出席(出席率81%)し、市議会議員や地元の各種団体長からお祝いや激励のことはをいただき、成人した責任の重さを実感しました。また、新成人の実施委員の企画による記念事業では、恩師や久しぶりの友人との再会に親交を深めました。



成人式の実施委員の一人として企画運営に参加し、式典では新成人を代表して「誓いのことば」を述べた清水智之さんの感想です。

『1月13日に行われた成人式には、私は実施委員として参加させていただき、「誓いのことば」もやらさせていただきました。2ヶ月程前から実施に向けた話合いが始まり、直前まで準備を行いました。式は厳粛な雰囲気の中で行われ、大変な緊張の中でしたが、無事に「誓いのことば」も読み上げることができました。その後の記念事業では、久々に友人と再会し、ビンゴゲームや楽しい話で盛り上がりました。今回このような貴重な体験をさせていただき、また何事も無く成人式が終了したことを大変嬉しく思っています。

これからの人生の中で、様々な苦勞や困難が待ち受けているとは思いますが、成人式での「誓いのことば」を忘れずに、決して負けること無く立派な人生を送りたいと思います。』

成人式実施委員会

平成20年 新年賀詞交歓会

平成20年城山地区コミュニティ協議会の新年賀詞交歓会が1月16日（水）城山地区市民センターで行われました。

地元の市議会議員をはじめ約60名のご出席をいただき盛大に行われました。宇都宮市民憲章の唱和の後、コミュニティ協議会の大島威二会長より挨拶があり、全国高校サッカーでの千葉の流通経済大柏高校の活躍に触れ、「地元柏の地域住民の応援と礼儀正しい高校生の温かい交流が優勝に導いたのではないだろうか。城山地区でも青年が地元を愛し、また住民が青年を温かく育てる“まちづくり”を進めたい」との方針が語られました。

また、今回の賀詞交歓会は初めての試みとして、お酒抜きの会とし、食生活改善推進員協議会の方々が地元産の果実を使用して作ったデザートなどもいただきながらの歓談となりました。

今年度も、地域住民の皆様の健康と、住みやすい“まちづくり”を誓って閉会となりました。

広報部会長 川鍋隆三郎



よみがえれ大谷

奇岩群植栽事業の発進

一昨年、「大谷奇岩群」が「華巖の滝と中禅寺湖」に次いで県内二つ目の国の名勝地に指定されて早や2年がたちますが、城山観光エリアのよみがえりの確かな手掛りはまだ掴めていません。それでも手をこまねいていられないと昨年、この奇岩群にかつて季節の彩りを添えていた自生のツツジ、シャクナゲや種々の山草を改めて植え育てて、国の指定にふさわしい大谷景観を復元しようとの声が上がリ、当地又関係諸団体に加え県造園建設業協会、市の観光交流課等の協働事業の母体「よみがえれ大谷プロジェクトエコ実行委員会」を7月に設立。会の始動は植栽現地地主の方々



のご了解を頂くことと植栽花木・山草のご提供を愛好家の方々に呼びかけること。幸い提供のお申出は当地区だけではなく隣接地区の方からも頂き、さらに各自治会と地区内外ボランティアグループへの協力依頼も積極的に行い、11月18日、本番一週間前に植栽現場兜岩周辺の草刈り・枯れ木伐採・支柱作り作業と寄贈者のお宅から植栽花木600本余の運搬・集結作業が参加30名によって小気味よいほど順調に行われました。

いよいよ本番の11月24・25日。初日、細谷美夫実行委員長の”安全第一、無理せずに”の挨拶を合図に作業開始。参加90名が数グループに分かれ、造園のプロ15名の指図のもと担当現場ごとの花木・用土運搬・植え込み班、50トンの大クレーンによるミニバックホー・大株花木の姿川をまたぐ移送班、バックホーによる穴掘り・残土処理班等々。足元のよくない現場での2日間延べ百数十名による作業が無事終了できたのはプロの親身な力添えと参加者全員の意気込みが一つになった連携プレーがあったからこそと痛感！植栽草木のご寄贈、作業へのご参加、ナルク栃木（とちの実会）の大勢のご参加、安協の交通整理のご協力ありがとうございました。5年計画の第一歩でしたが大谷の岩と緑と花の見事な景観が今から楽しみです。

環境部会長 田島孝夫





『99歳の看板娘』

関東バス長坂坂上バス停の十字路を北へ1kmばかり行くと、東北自動車道の御料地橋手前の側道近くに小さな地元産野菜の直売所があります。ご近所の非農家の奥様、常連のおかみさんたちが売り手のお婆ちゃんと世間話をしながら品定め、時間によっては並ぶお客さんも。

店番のお婆ちゃんはなんと白寿、99歳の誕生日を迎えたばかりという。旦那さんは終戦直前に中島飛行機宇都宮工場で材料の出入庫管理をやっていて、招集は逃れたものの、目の前の食堂厨房へ爆弾の直撃、女子寮へ機銃掃射など恐ろしい戦争体験もしたそうで、戦後退職金代わりに貰った空襲残骸の木材で、現在地へバラックを建てて移り住んだとのこと。

「さつまいも170俵の供出割り当てで、鹿沼街道まで運ぶのには苦労したよ。ゲートボール場を作ったときは男衆の中で女一人。工事の区切りの酒飲みにも振り回されながらも楽しかったが、今は誰もゲートはやらないし、話仲間もない。野菜の無人店を出せば黙って品物持って行かれちゃうひどい仕打ちを見かねて店番になったけど、時と共に常連のお客さんも出来て、たいした役にも立たないけど一日此処へ座って、仲良く世間話が一番楽しみだね。たまに行く病院の先生とも仲良くてどこも悪いところないよだってさ。この小屋も一度風で倒れてせがれが建て直したんだ。寒くないかって？暖房はないから何かにくるまって余程の時は店じまいさ。足腰痛いのは年のせいかな。でも手押し車につかまりゃ家までちょこちょこだよ。」

と逆にハッパをかけられ、明治、大正、昭和、平成と四代を生きてきたたくましいサングラスのお婆ちゃんの前を退散しました。

通信員 澤井 勇

「平成19年度城山地区(城山東小学校区)防災訓練」報告



平成19年度城山地区(城山東小学校区)防災訓練が、平成20年1月20日(日)午前8時50分から正午までの約3時間余り、城山東小学校の校庭及び体育館で行われました。これに先立ち、各自治会では班長を中心に世帯ごとの安否確認を行うなど、より災害に即した訓練も実施されました。当日は厳しい寒さの中、多くの参加者が真剣にビデオ研修(阪神淡路大震災に学ぶなど)や、応急救護訓練、初期消火訓練、煙体験、防災資材点検等の訓練に取り組みました。参加者に尋ねたところ、「応急救護の心臓マッサージでは、かなりの力を要した」との声が多くありました。訓練後の講評では、大規模震災等が発生した場合は行政などの早期支援が期待できず、自治会などの自主防災組織に頼らざるを得ない状況にあり、その意味でもこうした訓練が重要であるとの言葉がありました。欲を言えば、寝たきりの状態にある方や、負傷者の方々を想定しての救護、運搬といった現実に即した訓練も今後の課題として検討する必要があるのでは?と感じました。

主催は城山地区連合自治会防災会、城山東小学校区内7自治会(立岩、瓦作、坂本、西駒生、東駒生、上駒生、ニュータウン駒生) 通信員 笹原 定一

無病息災を願って
20年続く

田下町のどんと祭り

1月13日、城山地区田下町で、恒例の「どんと祭り」が実施されました。多光会・田下クラブ・子供会育成会・自治会の四者の共催で行われるようになってから、今回は20回目にあたるということでした。実行委員会では、「パン・パーン」という破裂音を昨年よりも派手にしようと、孟宗竹を倍ほど用意して芯の部分にセット、高さ6mと5mの2基のやぐらを組み立て、古くなっただるまや正月飾りをやぐらの周りに飾り、点火の時を待ちました。



実行委員会から「まゆ玉引き換え券」が、各世帯に配布され、育成会が「白・黄・赤・青」の四色を組み合わせた「まゆ玉」を200本用意し、開場と共に全部交換されました。実行委員長の挨拶で祭りが始まり、5時30分の定刻に「子供用のやぐら」に点火、約15分過ぎて「大人用のやぐら」にも点火されました。時々、青竹が破裂して「パーン」とはじけるたびに、参加者は、「ワー」「スゴイ」と歓声をあげていました。会場の入口には、育成会手作りの「甘酒」が無料で振る舞われ、婦人会の「ケンチンうどん」と田下クラブの「焼きそば・焼きとり」の模擬店も大盛況でした。まゆ玉を手にした親子連れが、早く炎が下火にならないかと、2基のやぐらの周りにぞくぞくと集まって来ました。今年1年の「無事息災」を願ってまゆ玉をあぶって食べるのです。

この催しは、田下町の伝統行事として、これからも続けて行きたいと関係者は口をそろえて話していました。

田下町 森 多氣夫

ハーモニカや民謡を楽しむ

野尻で出前講座を開く

12月15日(土)10時から、野尻公民館を会場に、42人の参加者が集まり、心休まる音楽の集いを開きました。

前半の1時間は〈昔懐かしいハーモニカを聴こう〉と題して、斉藤重利さん達シルバー大学卒業生のグループ12名による演奏に合わせて、「七つの子」「荒城の月」などを出席者が合唱しました。またナツメロの愛染かつら「旅の夜風」や新しい「千の風になって」の吹奏には、大きな拍手が起こりました。



後半は〈日本の心「民謡の世界」〉で、小学4年生の成島晴美さんが、尺八の伴奏に乗って「足尾石刀節」や「篠山木挽」など北関東甲信越大会入賞の曲を、声高く歌って会場を魅了しました。

演奏終了後、参会者一同が昼食を一緒に食べて、寒い歳末の一日を暖かい話題に包んで楽しく過ごしました。

野尻生きがい塾塾長 阿部 久雄



社会体験学習(宮っ子チャレンジウィーク)

Challenge



本年度の城山中学校の社会体験学習は12月10日から14日までの5日間、「働くことの尊さ、他人を思いやる心、社会に役立つことの大切さ、自己の在り方生き方などを身につける」ことをねらいとして2年生を対象に実施されました。

生徒たちは52の事業所に小グループに分かれて出向き、販売業、接客業、農業などさまざまな仕事を体験・実習しました。そのうち区内では25の事業所に協力をいただきました。

慣れない活動に、最初は戸惑いを覚えた生徒もいたようですが、事業所の方々の温かい励ましにより無事やりとげ有意義な学習となりました。

この体験学習は次年度も実施される予定です。今後も地域の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

城山中2学年担任 山口 和彦

生徒からの感想

- 私はこの体験学習を通して、改めて笑顔の大切さを実感しました。これからは人に優しく、笑顔をやさず過ごしていこうと思います。
- 宮っ子チャレンジウィークの5日間、大変なこともありましたが、とても勉強になりました。今後はここで学んだことを生かして学校生活を送りたいです。
- 店の人の考えや気持ちを知ることができました。買い物に行ったとき店内の様子が気になるようになりました。



大谷石の新しい可能性!?〈大谷石あかり・夢あかり〉

城山地区市民センターで実施している「ミニ大谷石あかり・夢あかり展」を見に行ってきました。

昨年のフェスタin大谷から始まった、大谷石を使った新しい試みとのこと。

冬の凜と澄んだ空気の中、大谷石で出来たオブジェの中でロウソクの火が揺らめく姿は、淡く、幻想的で、石肌とのコントラストの妙も素晴らしく、なんとも暖かい気持ちにもなりました。

今は小さなあかりかもしれませんが、だんだんに広がり、大きなあかりになったら良いな…このようなまちづくりの活動が増え、みんなが知恵や力を合わせることで、地域が盛り上がっていったら良いなと思いました。

地区市民センターでの石あかり・夢あかり展は、毎月第2・第4水曜日の午後5時から8時に開催しているとのこと。

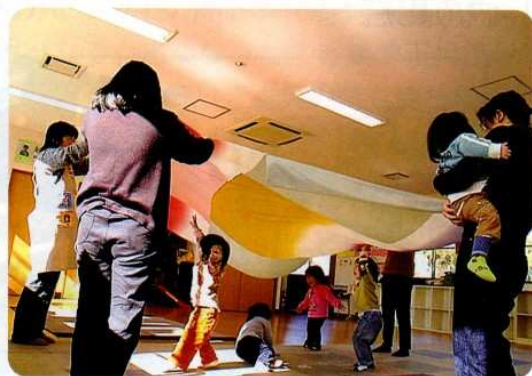
まだご覧になったことのない方は、是非一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。





まごころハウスを訪ねて

城山中央小学校南西側に在る、子どもの家〔まごころハウス〕は、今年5年目を迎えます。平日の午前10時から正午までの2時間は、就学前の乳幼児と保護者を対象に、子育て支援をしています。指導員さんに子育ての悩みを相談して不安を解消したり、子どもたちと一緒に遊んだり、おしゃべりしたりと、無料で参加できる ふれあいの場となっています。



・参加者Aさん：「孫は動きも早く、とても体力がいますが、指導員さんも一緒に遊んでくださるので、とても助かっています。」

・参加者Bさん：「まごころハウスへ行こう。という日は、子どもも朝からわくわくしています。」

・指導員さん：「初めて参加ある方は、ここに来るまでの一歩に、あごく勇気がいると思いますが、一人で悩まずに気軽に来て欲しいです。」

指導員さんの手作りの遊具で楽しく遊ぶ子供達の笑顔が、すごく印象的でした。

2008.1.15.(火)

次に子どもの家〔まごころハウス〕の学童保育の様子です。放課後になると、小学生の子どもたちは「ただいま」と言って帰って来ます。手を洗い、うがいを済ませると、家庭で過ごすように、ほっとひと息。宿題をしたり、お友達と遊んだり、皆で一緒におやつを食べます。また、保護者会で話し合われたイベント企画などのお楽しみも有るそうです。

・保護者Cさん：「初日は、とても緊張しましたが、今ではお迎えに行くと、もっと遅くていいよ。なんて言われるのであよ。」(笑い)

・保護者Dさん：「親が病気をした時も、子どもが心配で相談しました。臨機応変に対処してくださって、とても感謝しています。」

・指導員さん：「一緒に遊んだり、健康面を気遣ったり、必要に応じて仲間づくりやしつけなどの指導をしたいします。子どもたちは、協調性が有り、明るくて、とても素直であよ。」

訪れた日は、丁度ボランティアによる、ハーブ演奏が有りました。子どもたちは、楽器について活発に質問したり、演奏に合わせて歌ったりしていました。感性豊かな子どもたちの将来が、今から楽しみです。

2007.12.17.(月) 通信員 大柿 晴子



団体 紹介

城山地区コミュニティ協議会 広報部会



城山地区コミュニティ協議会広報部会は、平成16年6月に「城山地区ホームページ」を立ち上げた「ホームページ作成委員会」を母体に、平成18年に発足いたしました。

事業としては、地区ホームページの作成と情報誌「しろやま」の発行を行っています。

城山地区で開催される各種イベントでの取材活動や編集作業に汗を流しています。

このような仕事は初めての部員がほとんどですが、メンバーの連帯も強く、和気あいあいの中で、楽しく作業を進めています。

ホームページの掲示板では、読者から「素人らしさが出ていて良い」との褒め言葉もいただいています。

今後も地域の方々のコミュニケーションの道具として、親しまれるホームページ・情報誌となるよう、部員一同頑張っていきたいと思っています。

取材活動等では、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

広報部会長 川鍋 隆三郎

城山地区青少年育成会講演会(12月23日 会場:城山地区市民センター) 「子どもの心を守り育てる地域の力」参加所感

精神神経科のドクターである水島先生のお話は、これまでの医療現場での体験と専門知識に基づいたもので、日頃子育てに不安や疑問を抱いている私たちにとって大変参考になりました。

そんな中でも特に、子どもの自尊心を育てることや大人が本気で子どもたちに関わることの大切さを話される部分には、聞き入ってしまうものがありました。自尊心とは、普段意識するものではないが、それが失われると問題行動が現れるものであり、現在の子どもたちは、その自尊心が低い状況にあること、そしてその自尊心を育てるには、その子の存在を認めてあげることが大切と話されておられました。子どもの行動を見て見ぬふりをしているのは、子どもにとって良いことではない。大人が厳しくても優しくてもどちらでも良いので、大人の本気さが子どもに伝わることが大切であることなどは、子どもには優しく接しなければならない、叱ってはならないという子育ての考え方には、参考になる部分ではないかと思いました。

また、虐待としつけの違いとして、虐待は大人の気分で怒り、しつけは子どもの行動にある線を引いてそれを越えた場合に叱ることだと話されていました。そうすることで子どもはその線を理解して、行動を止めることができるが、大人の気分で怒られている場合では、何をしたらいいのか分からず、常におびえていることになって自尊心の形成につながらないとの話は理解できる部分でした。

先生のたくさんのお話を伺って理解を深めると共に自らを省みる場ともなって、大変良い学習の機会となりました。今、いろいろなところで子育てについて学ぶ機会がありますが、知識として分かっている、繰り返し機会あるごとに、自らを省みながら学ぶことは生涯必要であると思いました。

城山地区子ども会連合会長 横松 盛人





栃木県が発行した案内書の絵地図
「栃木県史蹟名勝鳥瞰図」より

高い山は信仰の対象だった

宇都宮市の南西部に「根古谷台遺跡」があります。そこで発掘された200あまりの墓地の向きが「北西」の方角に向けて埋葬されていました。遠くの男体山を、信仰の対象としていたのではないかと、言われています。

日光を開山した勝道上人も、男体山が神仏の住んでいる「フダラク山」ではないかと考え、その頂上を極めるため大変な努力をされました。

そのお弟子さんである「尊鎮」というお方も、白馬の導きにより、多気山の中腹にたどり着き、ここに奇異を感じる大きな火山岩の近くにお寺を建てました。

宇都宮の祖「宇都宮(藤原)宗円」も、源頼義蝦夷討伐のおり、その命令により、戦神(いくさがみ)を祀るため、一際高い「戸室山」に社を建立しました。「戸室山神社(祭神:たかおかみ)」です。その宗円が晩年、京都から運んできたとされる「不動明王坐像」を、氏家勝山から多気山に遷座させ、持宝院の本尊としました。

時代によって、流行り廃りがありますが、勝道上人の時代には、大日如来一葉師如来が信仰の対象となり、鎌倉時代には、観音信仰が流行り「聖観音」のほかに千手観音などが信仰の対象となり、33観音札所めぐりとなります。いずれにしても、その祀られている場所は、高く仰ぎ見るところ、なだらかな穏やかな姿をしていること、(反対側には、荒々しい山がある、とか)つまりどこか違った感じがする山が選ばれています。この辺に古代の人々の神の存在を認め、奇異を感じれば拜む、という態度の現われではないか、その一端を書き記してみました。

宇都宮市文化財解説・観光ガイド 永森 庄二

城山地区ホームページが楽しい!



毎月更新されている城山地区のホームページはご覧になったことがありますか?

城山の楽しい情報満載ですので、是非、アクセスしてくださいね。また、更新作業などを手伝ってくれるスタッフも募集しています。是非、ご連絡ください。

ホームページアドレス

<http://www2.ucatv.ne.jp/~shiro333/>

編集後記

今回は30号を記念して、初めてカラー版を制作いたしました。いかがでしょうか?

「情報ステーションしろやま」では、今後、更なる紙面の充実を図っていきたいと考えています。是非、皆様のご意見をお聞かせください。

広報部一同



「情報ステーションしろやま」の企画編集員・通信員を募集しています

城山地区コミュニティ協議会が発行している当紙「情報ステーションしろやま」の編集作業や記事の取材などを手伝っていただけるスタッフを募集しています。年齢・経験等は不問です。是非、ご連絡ください。

問い合わせ先：城山地区市民センター内
「情報ステーション しろやま」担当まで

城山地区の人口(平成20年2月末日現在)

●総世帯数 8,837世帯 ●総人口 23,183人
●男：11,460人 女：11,723人

編集・発行

城山地区コミュニティ協議会

〒321-0345 宇都宮市大谷町1059番地5
宇都宮市城山地区市民センター内
TEL 028-652-4794 FAX 028-652-5570

